



社会教育委員だより No.36

令和6年9月1日 山北町社会教育委員会議
(山北町教育委員会生涯学習課内)

ひと昔前には使われていなかった「猛暑」という言葉が一般的となり、「異常気象」が異常ではない状況となってきました。昨年の夏には国連の事務総長が『地球沸騰化時代がきた』とまで言っています。このような状況では、生涯学習活動を含め夏季の人々の活動が制限される等の影響が出ないとも限りません。地球の温暖化が次の世代に及ぼす影響を、今を生きる私たちが真剣に考えていかなければならないと思います。



社会教育委員会議では、教育委員会から諮問があった【民俗文化財の保護・継承について】の答申に向けて研究に取り組んでいます。

今年度の予定としては、9月に町内の伝統的な行事に関する“アンケート調査”を実施する予定です。これは昨年度に行なった国・県・町指定文化財の各保存会会長との話し合い（聞き取り調査）の結果に関連するものです。

聞き取り調査の結果は、前号（No.35）でも概要を記載しましたが、少子化・高齢化・過疎化という社会状況の中で、苦悩する保存会の内実が浮き彫りとなりました。

直面する問題点としては

- ① 指導者や後継者不足。
- ② 公演や行事催行に係る資金不足。
- ③ 古くからの“伝統”や“しきたり”との兼ね合い。
- ④ お囃子に参加する子どもの減少、あるいは該当する子どもが“いない”という現状。

などが挙げられています。現実の問題として毎年の行事の催行が難しくなっているという保存会もあるようです。

以上のように、多くの課題を抱えている伝統行事を含む民俗文化財の現状を町民の皆さんが「どのように受け止めているのか」また、「どの程度の興味や関心を持っているのか」更には「次世代にどのように引き継いでいけば良いのか」などについてアンケートによりご意見を頂きたいと思います。その結果に基づき、社会教育委員会議として今後のあり方や必要な手立て等について検討し、最終的な答申に結び付けていきたいと考えています。全町民を対象としたアンケートではありませんが、用紙が届きましたらご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、今回のアンケート調査は、一般の町民の方々だけではなく、山北町の将来を担う青少年を対象とした調査も行う予定です。具体的には、小学6年生児童、中学2年生生徒、そしてここ数年「地域と協働した探究活動」に取り組み、山北町に様々な提案をしている山北高校の生徒にも、民俗文化財を含む伝統行事に関する調査を実施する予定です。

